

分科会	素材との豊かな出会い	学年	小4年
提案者	伊勢崎市立あずま南小学校	岡崎	久美子



テーマ おもしろ素材を使って教室を变身させよう 「仕切って かこって 教室へんしん」

1 はじめに

子どもの頃、友だちとワクワクしながら基地作りをした記憶がある。学校で基地作りができれば楽しいだろうな。そんな発想からこの題材に取り組むことにした。普段の図工の授業ではあまり使わない素材を使ったら、どんなことができるだろう。子どもたちはどんな考え方をするのだろうと楽しみであった。また、教室や廊下の大きな空間を使うことで、ダイナミックに活動し、友だちと協力したり話し合ったりする。そこで子どもたちは自然にコミュニケーションを取りながら作業するだろう。同じ目標を持った仲間と、体全体を使って、豊かに表現させたいと考えた。

2 実践の概要

(1) 題材の内容

本題材は不織布、和紙、網、マルチ（農業用ビニル）、カーテン、ロープ、スズランテープ、ガムテープなど、自分たちで選んだり、持ち寄ったりした材料を使って教室や廊下を仕切ったり囲ったり、飾ったりして楽しむ造形遊びである。

(2) 目標及び評価規準

○指導目標

- ・さまざまな材料を組み合わせ、試行錯誤しながら工夫して教室や廊下を仕切ったり、囲ったり、飾ったりして楽しむ。
- ・表し方や材料の感じの違いが分かり、自分の作品に生かしたり、友だちの作品の良さや違いに気づいて認めることができる。

○評価規準

関：教室や廊下を仕切ったり囲んだりすることから思いついた造形活動に取り組む。

発：材料や物に関わり、自分なりの発想をする。

創：材料の扱いを工夫して、思いついたことを造形的に生かす。

鑑：表し方や、材料の感じの違いが分かり、関心を持って見る。

(3) 学習計画（全4時間計画）

- 1, どのような方法や材料で教室や廊下を仕切ったり、囲んだり、飾ったりできるか話し合う。(1時間)
- 2, 用意した物で、どのように仕切れるか試してみる。(1時間)
- 3, 新たに思いついた造形活動を工夫し、発展させる。(1時間)
- 4, 実際に作ったグループの説明を聞きながら見合い、鑑賞しあう。(1時間)



(4) 授業の実践

学習活動	支援及び指導上の留意点	児童の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・どのように教室や廊下を仕切ったり、囲んだり飾ったりできるか話し合う。 ・グループごとにどんな材料を使いたいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテンやフェンスの写真、試しに廊下を仕切ってみた写真などの資料を見せ、教室や廊下を仕切ったり囲んだりするには、どんな方法があるか、全体で話し合う。 ○教師の用意した素材もみせ、どんな物をつかって仕切りたいかを考え、グループで話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書や用意した写真を見せ、「仕切る」「囲う」などの言葉の意味も説明もした。教室を変身させるということに、かなり興味を示した。 ○話し合ううちに、だんだん方向が決まっていた。
<ul style="list-style-type: none"> ・用意した物で、どのように仕切れるか試してみる。 ・やってみた結果から、さらにどんな物が必要か、どんな方法がよいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丈夫で安全な仕切り方になるように色々な方法を試させる。 ○約束ごとを確認する ・いろいろな材料を使う。 ・友達と相談したり、協力したりしながら安全にすすめる。 ・材料を無駄にしない。など ○グループごとにテーマを決めさせ、どんな材料を使いたいか、何なら持ってこられそうかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロープや用意した材料で仕切り方を試すと、接合のしかたで悩み、結構時間がかかっていた。脚立を使うのは初めての児童が多く、男の子は使いたがった。 ○和気あいあいと話し合っていた。マルチ、不織布、カーテンと、班ごとに使いたい材料が違っていた。
<ul style="list-style-type: none"> ・仕切ったり、囲んだりしたことから新たに思いついた造形活動を工夫し、発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全面に気をつけて、教室や廊下を仕切ったり、囲んだり、工夫して飾ったりさせる。 ○活動がさらに発展できるような言葉がけをする。 ○完成作品に名前をつけることを知らせておき、イメージが持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スタート共に班ごとに基本材料を選び、それぞれ工夫して仕切っていた。 ○効率的な接合方法を数班に教えたが、ほとんどの班は自分たちで考えながら活動していた。 ○時間を少し延長したが、まだ作りたい様子だった。
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に作ったグループの説明を聞きながら見合い、鑑賞しあう。 ・片付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前をつけ、どんなところが気に入っているかを発表する。 ○他のグループはどんなところに工夫をしたのかを聞き、良いと思うところを伝えて交流しあう。 ○なるべくゴミにならないように片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハロウィンやクリスマス、お化け屋敷、ジャングル、びっくりハウスなどの名前がついた。 ○他の班のよいところを認め合っていた。 ○次のクラスが使いやすいよう、元に戻すように片付けた。

3 おわりに

子どもたちは、初めて扱う材料に最初は戸惑いつつも、慣れてくると夢中で作り始めた。研究授業のため制作時間が一時間と短くなってしまったが、もっと満足できる時間をとってあげたいと感じた。また、普段あまりコミュニケーションをとらない児童どうしもグループで協力したり、互いの発想を認め合う言葉を交わす姿が見られた。一番使わせたい材料に不織布を考えていたが、子どもたちはグループにより、それぞれのテーマにあった材料を選んでいたのであった。普段は紙やえのぐ、粘土といったものを使うことが多いが、色々な材料、色々な場を設定すると、子どもたちの発想が広がり、素材に対する経験が増える。この経験がまた次の創作につながるのではないかと感じた。

分科会	素材との豊かな出会い (素材：材料・時間・空間・場)	学年	中2年
提案者	伊勢崎市立境南中学校 川鍋 郁夫		



テーマ：素材との出会い「がらくたを使ったレリーフ」

1. はじめに

中学2年という時期は、少年期から青年期に成長する過程で、社会や大人に対する反抗期でもあり、中だるみの学年と言われる。無気力感が漂い、表現意欲が鈍るように感じる。この時期に創作意欲を高めるには、制作開始時に、今度の作品はおもしろそうだ、と思わせることが大切だと考えた。

制作意欲をかき立てる一つの要因に、素材のおもしろさがあると思う。素材として取り上げるものが、教師から与えられるものではなく、自分が見つけ出してきたものならどうだろう。現在生徒達を取り巻く生活の中で、一番多くの関心を持つことは何だろうと考えた。

使い捨て文化の時代から今、リサイクルや省エネが叫ばれている。今はもう使わなくなってしまった小さな頃に遊んだおもちゃ、壊れてしまった機械製品、身近な不要物に自分なりの意味を見出し、もう一度、作品として生き返らせる経験をさせたかった。使い捨て文化を過ごしてきた生徒達に、「がらくた」だってすばらしい作品に再生できるんだ、と感じて欲しかった。

2. 実践の概要

(1) 題材の内容

この題材では、その発想のもととなる「がらくた」という素材との出会いがまず重要である。さまざまな素材の生かし方を知り、生まれた発想をもとに素材自体と語り合うような時間も、創作への大切なプロセスである。テーマを生かすための表現形式や素材の選択、構成の方法などを含め、制作のプロセスなどを示し、発想へのヒントとなる指導が重要であると考えた。さらに、捨てないで持っていた「がらくた」を素材に使うことから、リサイクル問題や環境問題などの社会問題への関心を高めるきっかけになればと考えた。自分で集めた「がらくた」を素材として、自分が考えたテーマで作品を作らせることで、生徒の創作意欲を高め、生徒の持つ個性を引き出せる題材であると思う。

(2) 目標及び評価基準

①目標

- (1) 題材に興味を持ち、意欲的に制作することで表現する楽しさを味わう。
- (2) テーマにそって素材をいかした表現方法を工夫することができる。

②評価基準

	関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
おおむね満足できる状況	参考作品を鑑賞し、作者の表現意図、作品の良さや表現の多様性を感じとろうとする。	発想を具体的な形としてアイデアスケッチを描いている。	自分のテーマを表現するために、構成や着色などを工夫している。	参考作品や友達の作品の良さを感じとろうとしている。

十分満足 できる状 況	参考作品を鑑賞し、作者の表現意図、作品の表現の多様性を感じとろうとするとともに、自分のテーマを表現するための方法に興味を持ち、意欲的に表現しようとする。	発想を具体的な形とするために数多くのアイデアスケッチを描き構想を練り上げ、計画的に制作している。	自分のテーマを表現するために試行錯誤をしながら、構想を実現するための構成や着色方法などを工夫している。	作者の表現意図、作品の良さや表現の多様性を感じるとともに、自分の作品との違いを感じ取り、自分の作品の良さも確かめている。
-------------------	--	--	---	--

(3) 学習計画 (全13時間計画)

- 色々な作品を鑑賞し、制作意図を考える。 (1時間)
- 集めてきた「がらくた」を眺め、テーマ、題名を決定する。 (1時間)
- アイデアスケッチをする。 (2時間)
- アイデアスケッチをもとにがらくたを接着する。 (6時間)
- 着色をし、アクリル板のふたをする。 (2時間)
- 作品鑑賞会を行う (1時間)

(4) 授業の実際

学習活動	支援及び留意点	生徒の様子
○素材集めをする	・家にある使わない電化製品や廃棄物や机の中にあるがらくたなどを制作開始の1ヶ月前ほどから生徒に指示を出して集めさせる。大きすぎるものや危険物(電池、薬品、刃物等)新たに買った物は不適であるとする。	・毎週、「集めているか」と呼びかける。制作開始時に何も持ってこない生徒が4, 5人いた。
○色々な作品を鑑賞し、制作意図を考える。	・作品制作の導入において、先輩の参考作品を鑑賞し、作者の思いやその表現方法、表現の多様性を考えさせ、発表し合うなどの交流の場を設定することで制作意欲を高めた。	・多くの生徒が先輩の作品に興味を持って眺めていた。題名やテーマ、工夫点を発表し合うことが出来た。
○テーマ、題名を決定する。	・好きな言葉など思いつく言葉をいくつも書かせて、その言葉からイメージをふくらませるようにした。 ・どうしてもテーマが決まらない生徒が数人にいた。この生徒達には作りながらテーマを決めていってもいいと話し、制作に入らせた。	・「空」「海」「公園」「夢」「希望」「未来」など単語からイメージを広げていっている。 ・何も考えられずボーとしている生徒が6, 7人いる。
○アイデアスケッチをする。	・完成予想図を描いてみようとして投げかけ、アイデアスケッチに取り組みさせた。 ・完成予想図を描かせるのは難しいと感じた生徒が多かった。がらくたをいじったりいろいろ並べたりしてイメージを作っていくようアドバイスした。 ・電化製品の分解も始めていいことにする。	・積極的に描き始める生徒が数人いるが、ほとんどの生徒が何も描けない。 ・持ってきたがらくたを楽しそうにいじり始めた。

○アイデアスケッチをもとにがらくたを接着する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリル板上に「がらくた」を並べ、配置を検討し、素材にあった接着剤を使い丁寧に接着する。瞬間接着剤の使い方を注意する。 ・いらぬ、使わぬ素材を捨てるフリーボックスを作り、その中にあるものは、誰でも自由に使っていいこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤しながら多様な表現を工夫している生徒が多い。 ・素材の少ない生徒はフリーボックスから素材を見つけている。
○着色をし、アクリル板のふたをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・着色の方法として、抽象性をより高めたいときには単色でスプレーでの着色、銀色を選ぶと無機質な感じがでることや、材料が持っている色そのまま使いたい場合にも、バックだけを着色する方法などをアドバイスした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマを表すのに適した着色方法を考え、着色している。
○作品鑑賞会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを積極的に発表し、友達の発表もしっかりとした態度で聞くよう指示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品の良さを感じるとともに自分の作品の良さも確かめている。

3. おわりに

今回のように想像力をもとに作品を作り上げていく授業では、制作意欲を高めるためには、素材の持つおもしろさが大切だと言うことをとても感じた。人間、見えない中身をこじ開けたり、ものを壊していくことに楽しさを感じるものなのか、生徒達が壊れた電気製品などを分解しているときの楽しそうに、生き生きとしている様子が多く見られたことが大変な収穫であったと思う。材料や作品の保管場所の確保や完成後の作品の展示方法など課題もあるが、生徒の持つ感性をどのような形で表現に結びつけるかは、素材の持つ魅力にかかっているのだと改めて感じた授業であった。